

# 女子大学におけるレジャー教育の問題と今後への期待

— 短大卒業生からみた —

荒井啓子  
(武蔵野短期大学)

女性 大学 教科外教育 レジャー教育

## 1. はじめに

労働時間短縮化の動きや自由時間の増大、また所得水準の向上など、生活をめぐる諸条件の変化は、人々のレジャーに対する関心や需要を急速に高めていると言える。周知の通り、総理府の「国民生活に関する世論調査」においては、今後の生活の力点を「レジャー・余暇生活」に置くと答えた人がもっとも多く、1983年以来第1位を示し続けている。また、同調査では、人々が「物の豊かさ」よりも「心の豊かさ」を重視しているという結果が得られており、精神的ゆとりや生き甲斐を求める傾向も示唆される。このように、自由時間は量的拡大にばかりでなく、生き方への価値観の転換と関わり、その時間をいかに過ごすか、という質的充実がウエイトが置かれ始めている。つまり、「余暇をどうデザインし、どうエネルギー化するかという問題が重要視される」と言われる通りである。

このような状況からながめれば、レジャーのあり方が人々のライフスタイルを決定し、同時にライフスタイルがレジャースタイルを創造するということが言えよう。近年、女性のライフスタイルは著しく変化した。それに伴い拡大した自由時間を、個人のライフスタイルに応じて主体的に活用する能力が必要とされ始めている。学習社会が志向され、生涯、主体的に学習していこうとする現代において、それに組み込まれるレジャー活動への自律的な取り組みは、先に述べた精神的ゆとりや生き甲斐と関わって重要と思われる。女子大学では、女性の多様化・個性化するライフスタイルを考慮し、レジャー環境の整備・情報の提供とともに、レジャーへの自律的な能力の育成へ向けてのレジャー教育が、生涯学習を背景として推し進められるべきであろう。そこで、本研究では、女子短期大学卒業生の卒業後の生活構造や意識の実態を調査することにより、現代の女性のライフスタイルを志向した、女子大学におけるレジャー教育の問題点を模索し、今後のあり方を検討することを目的とした。

## 2. 研究の方法

### 1) 調査対象

都内にあるM女子短期大学卒業生を、5年ずつの卒業時期によって、5つのグループ（Ⅰ期→昭和40年～45年卒、年齢46～41歳、Ⅱ期→昭和46年～50年卒、年齢40～36歳、Ⅲ期→昭和51年～55年卒、年齢35～31歳、Ⅳ期→昭和56年～60年卒、年齢30～26歳、Ⅴ期→昭和61年～平成2年卒、年齢25～21歳）に分け、各期ごとに30名を抽出した合計150名を対象とした。

### 2) 調査方法

1991年10月中旬、郵送による質問紙調査（主に自由記述とした）として実施された有効回収率は45%であった。

### 3)分析方法

本研究で分析対象とする主な調査項目は、「学生時代に一番思い出に残っていること」および「学園生活について良かったこと・悪かったこと・今後の要望」である。この中から、特に教科外教育と校外教育を取り上げ、家庭生活に関する調査項目を参考に解析をすすめた。考察にあたっては、KJ法を用い、I・III・V期の卒業生の調査結果を分類・整理した。

## 3. 結果及び考察

### 1)「学生時代に一番思い出に残っていること」から

「学生時代に一番思い出に残っていること」について、I・III・V期の卒業生の回答をまとめると、表1のようになる。この回答で、I・III・V期の卒業生ともに共通してあげられていることは「クラスの団結心」「友人との語り」など、友人との出会いや交流に関する内容のものである。また、「寮生活」もそれに含まれるであろう。これらのことはいずれも人間関係に関連した事柄である。

教科外教育や校外教育では、I・III・V期とも類似した回答が寄せられているが、I・III期では学園祭、III・V期ではクラブ活動が共通してあげられている。V期では、クラブ活動に加えて、入退会の拘束が比較的弱いサークル活動が入っている。また、「研修旅行」は、学科や開始年度、必修的なものと任意的なもの、場所や内容などによって一様ではないが、思い出深いものとなっていることが分かる。

### 2)「学園生活について、良かったこと・悪かったこと・今後の要望」から

ここでは、学園生活において、良かったこと、悪かったこと、今後への要望の3点について、教科教育、教科外教育、施設、その他、の4つの観点から回答を求め、そのうちの教科外教育と施設を取り上げて考察を行った。

教科外教育及び校外教育における「良かったこと」についてみると、各期の卒業生ともに共通して「良かった」とする内容は、「研修旅行」「寮生活」「友人関係」である。これらはいずれも回答率が高く、印象的であったことが示唆される。また、I・III期に共通するものに「学園祭」、I・V期に共通するものに「クラブ活動」があり、これらも同じく高い回答率を得た。いずれにせよ、これらの教育内容は各期とも「友人関係」を背景に楽しい思い出につながっていると考えられ、大学生活における教科外教育の重要性を再確認することができる。

「悪かったこと」は、各期を通じて、「良かったこと」であげられた「学園祭」や「クラブ活動」が不活発または不満足に終わったことが指摘されている。また、良い印象をもった活動は、彼女等がそれだけ熱心に参加したとみなすことができるのであるが、反面、そのような活動には、より高度な内容を期待するため、ますます改良すべき点は提起されると思われる。このようなことを受けて、「今後への要望」では、当然、「クラブ活動」や「学園祭」をより活性化することが望まれている。加えて、III・V期では「研修旅行の充実」があげられており、その内容や期間などの検討が要請される場所である。

施設・環境については、I・III期では「静かな環境」、III・V期では「きれいな環境」が「良かったこと」として共通にあげられている。I期の卒業生が在学した当時は、校舎が新築されていなかったこともあって、「悪かったこと」に「校舎の古さ」が指摘されて

いるが、Ⅲ・Ⅴ期では、新校舎での快適なキャンパスライフが伺える。これを受けて「今後への要望」としては、Ⅰ期では「きれいな施設・環境」を求めているが、Ⅲ・Ⅴ期では校舎の充足について、図書館、寮、購買部、学食のメニュー、プールなどの体育施設、多目的ホールなど、教科外活動に関わる施設や内容の充実を望んでいる。また、Ⅴ期においては、大学会館など「卒業生が利用できる施設」の設置も要望され、生涯学習との関連が示唆される。

「学園生活について、良かったこと、悪かったこと、今後の要望」における「教科外教育・校外教育」についての回答は表2に、「施設・環境」については表3にまとめた。

#### 4. まとめ

教科外教育についての卒業生の回答から、女子学生は学生生活において、学園祭、クラブ活動、寮生活、研修旅行などの友人関係に関わる活動を重視しており、またそこで楽しみを見いだしていると思われる。これは、人間関係の豊かさに向けた活動を求めているとみなすことができ、現代生活の中で人々が志向する「モノからココロへ」の価値観に共通すると考えられる。大学においては、教科外活動に関連する施設の拡充や校外学習をはじめとする各種活動のプログラムの充実など、環境の整備に努め、人間的な触れ合いを体験できるようなレジャー活動の推進を図ることが大切であると考えられる。

表1：学生時代に一番思い出に残っていること

		I 期	Ⅲ 期	Ⅴ 期
A 教育内容に関連して	* 教科教育 (授業・学習)	* いろいろな勉強をさせてもらった * 机上の勉強でない教養を身につけた * 教育実習 * 国文学の授業  * 国語学と一般教育科目が不得手	* さまざまな先生方の授業 * 法学に興味 * 体育にポウリング * 卒論  * 高校時代の英語教育とのギャップ * 単位取得に苦労	* 秘書の授業 * 高校時代と違う勉学の進め方  * 教育実習
	* 教科外活動及び校外教育	* 学園祭での歌舞伎展示 * 英語劇 * 文化祭 * 文学散歩 * 芸術鑑賞 * 体育祭	* 学園祭 * テニスクラブの活動 * 合宿	* サークル活動 * クラブ活動
	* 海外派遣 * 研修旅行	* 卒業式で海外派遣賞を受ける * 海外派遣賞で東南アジアへ行く	* 北海道研修旅行	* 海外研修旅行 (アメリカ、カナダ)
B 人間関係について	* 教師の思い出	* I先生の授業 * N先生が担任だったこと	* ゼミでの先生との語り	
	* クラスのシステム * 友人関係	* 1クラスだけだったので家庭的 * クラスに団結力があり仲良し * 少人数のため先生に接する機会が多 * 先生・先輩との距離感がなく自由	* 友達 * 友人との語り * 友人とのヨーロッパ旅行	* クラスの団結心 * 卒業時のクラス文集 * 友人からの手紙 * 留学生との友人関係
	* 個人的体験	* 一生の友と思える友人に恵まれる * 旅行 * お茶会	* コンパ * 少し大人になった気分での遊び * 短期留学 * 旅行	
	* 寮	* 寮生活	* 寮生活	* 有意義な寮生活
C 施設・環境	* 学校・環境の印象	* 入学式の校門の桜の木 * 校門前の八重桜の素晴らしさ  * 木造校舎で大学という感じに乏しい  * 校歌が流れると立ち止まり校旗に向く中・高校生の姿への驚き	* 木造校舎 * 学園内の遠跡  * 自宅から遠距離	

表2：学園生活について、良かったこと・悪かったこと・今後への要望  
 <教科外教育及び校外教育>

( )内は頻数

	良かったこと	悪かったこと	今後への要望
I 期	*学園祭(3) *研修旅行(3) *クラブ活動(2) *寮生活(7) *友人関係(4) *その他(3)	*学園祭が不活発(2) *学園祭の訪問者に対して入校が厳しい *クラブ活動が不活発(2) *寮での3人部屋は狭い	*クラブ活動の活発化 *学園祭の活発化 *寮に個室を  *学生たちが意欲的に(3) *大学らしい活動内容に
III 期	*学園祭(4) (これらは主に友人関係) *研修旅行(5) *寮生活(3) *友人との出会い(3)	*クラブ活動の不活発(5) *クラブ関連施設の場所が不便(2)	*クラブ活動の活発化(3) *研修旅行の期間の充実(2) *学園祭を活発化(2)
V 期	*クラブ活動(2) *研修旅行(4) *テーブルマナー *寮生活 *友人関係 *自己啓発	*学園祭の不活発(5) *クラブ数の少なさ  *クラブ活動への不参加(個人的反省)(2) *自己の学生生活(個人的反省) *友人関係(個人的反省)	*学園祭を活発に(3) *クラブ数の増加 *クラブ活動の活発化(2) *教科外教育全般の充実(2) *海外研修旅行 *中・高・短大の合同行事

表3：学園生活について、良かったこと・悪かったこと・今後への要望  
 <教育施設・環境>

( )内は頻数

	良かったこと	悪かったこと	今後への期待
I 期	*森の中の静かな環境(5) *木造校舎 *広い敷地 *充実した調理器具	*校舎の古さ(6) *雨漏り *トイレ *暖房設備 *机が小さい *体育施設の不足(2) *食堂の混雑 *全体の設備の不足	*大学らしさ(2) *きれいな施設・環境(2) *広い運動場  *大学全体の発展
III 期	*新築校舎できれいな環境(7) *全体の設備の充実(2) *静かな環境 *しし教室 *学食の広さ *図書館	*食堂の混雑 *学食の値段が高い *学食が狭い *図書館の蔵書数 *寮が古い	*図書館の充実(2) *施設全体の充実(2) *実習教室の充実(2) *緑の環境の確保 *寮の近代化
V 期	*きれいな施設(4) *しし教室 *図書館 *秘書コース関係施設	*寮がきたない *水道の数が少ない *全体的に施設が少ない(3) *プールがない *エレベーターがない	*きれいな寮 *水道設備の増設 *学食の広さとメニューの改善(2) *短大専用の購買部 *プールや体育施設 *多目的ホール *卒業生が利用できる施設